

令和6年度 岐阜県美術館 第2回美術品等収集委員会 議事録

日時	令和6年10月16日(水)／24日(水)／27日(日) 各々2時間程度
場所	岐阜県美術館 特別応接室、第3展示室 (PARARELL MODE オディロン・ルドン展会場)
出席者 (委員)	(順不同) 雪山行二 美術史家 村田眞宏 豊田市博物館 館長 矢橋龍宜 矢橋ホールディングス株式会社代表取締役社長 高橋明也 東京都美術館 館長 長屋光枝 国立新美術館 学芸課長 花里麻理 茨城県陶芸美術館 学芸課長 *田口義隆委員(田口ホールディングス株式会社代表取締役社長)は寄贈者である田口福寿会の会長でもあることから出席を控えていただいた。
(事務局)	日比野克彦 岐阜県美術館 館長 小野正行 岐阜県美術館 副館長兼総務部長 正村美里 岐阜県美術館 副館長兼学芸部長 他 岐阜県美術館学芸部職員、岐阜県県民文化局文化伝承課職員
議事内容および委員からの意見	
◆委員の都合に合わせて作品を前に同様の説明を行い、それぞれに意見をいただいた。 日比野館長 開始の挨拶 正村副館長 司会進行、委員、職員紹介／進行手順説明 担当学芸員 作品説明	
委員からの意見 (作品実見後の最終意見) 【寄贈作品】オディロン・ルドン《野の花の花瓶》パステル画 (公財)田口福寿会からの寄贈 A 委員 このように高額な作品を購入して寄贈してくれる方がいるということは有難いこと。 B 委員 金額的に言えば、類似品と比較しても本作の金額は妥当である。 A 委員 今公立美術館は購入も寄贈も厳しい中で非常に珍しい例である。 B 委員 一貫してルドンを集めていることが評価につながった。 C 委員 密度が高く、テクニクも様々に研究できるコンテンツだ。 D 委員 ルドンは油彩画もパステル画も同等の価値をもつので良い作品だ。寄贈者は寄贈を念頭において購入したのか。―(事務局)そうだ。財団の60周年記念ということで寄贈の運びとなった。 D 委員 状態が良い。パステルの盛り上がりなども見える。顔料が厚いところとそうでない部分が描き分けられていて、構成に立体感がある。 E 委員 フランスにあったとのこと、岐阜県美術館の名がヨーロッパで知られてきたということ。今までの実績が評価され、情報が集まり寄贈者のおかげで手に入った。めでたいことだ。 F 委員 作品に対して文句はない。むしろ完璧すぎるような仕上がりだ。来歴はどうか。―(事務局)ルドンを扱っていた画廊を経由し個人の手を渡ってきたもの。―評価額も妥当。描かれているモチーフの実物なども収集できるとよい。	
司会 館長	以上の作品を今年度受贈、収集することとしてよろしいか。―(委員)異議なし。 1点について収集に問題なしとご意見をいただいた。お礼申し上げる。